

母親の心の理論と養育した子どもの数： 母親による子どもの心の推測のメカニズムの検討

児童学部 児童学科 菊野 春雄

要旨:本研究では、子どもを育てた経験が子どもの心の状態を推測するのにどのように影響するのかを検討した。そこで、子どもを始めて育てる母親に比べ、子どもを多く育てている母親の方が、子どもの行動から子どもの心の状態をより適切に推測しようとするのではないかと予想した。母親に子どもの心のサイン認識尺度（CS-SCM）を提示した。子どもの心のサイン認識尺度では、母親が子どもの心の状態（子どもが悲しい時）を子どもの行動から推測できるのかを評価した。その結果、母親は子どもの心の状態を推測する際に、子どもの目、口、表情、歩き方、話し方の情報を有意に多く使うことが認められた。子どもの数が一人か二人以上によって、子どもの心の推測に有意差は見られなかった。

キーワード:心の理論、母親、心のサイン、子どもの数、養育

これまで多くの発達研究では、我々が他者の気持ちを理解するときに、心の理論が大変有効な能力となることが多くの研究で報告されている（Baron-Cohen, 1995; Baron-Cohen, Leslie, & Frith, 1985; Gopnik & Astington, 1988; Mitchell, 1996; Peterson & Siegal, 1995 ; Perner, Frith, Leslie, & Leekman, 1987 ; Wellman, Cross, & Watson, 2001; Wimmer & Perner, 1983）。

大人は子どもの心の状態を容易に推測できるのだろうか。Keating and Heltman（1994）は、子どもの嘘について、子どもの顔から大人が適切に判断できるかどうかを調べている。その結果、大人は子どもの嘘を適切に判断できなかった。この結果は、大人は子どもの行動から心の状態を推測することが困難であることを示している。大人が子ども行動から心の状態を認識するためには、子どもの行動から適切に情報を抽出し処理する過程が必要であることを示唆している。

それでは、母親は子どもの心の状態をどのように認識しているのだろうか。これまでの研究では、母親は子どもの目などの情報を使って心の状態を推測することが明らかになっている。また、母親の育児不安などの要因によって、子どもの心を推測するための手がかりとなる情報が異なることが示唆されている。

そこで、本研究では、子どもを育てた経験が子どもの心の状態を推測するのにどのように影響するのかを検討した。子どもを始めて育てる母親に比べ、子どもを多く育てている母親の方が、子どもの行動から子どもの心の状態をより適切に推測しようとするのではな

いかと予想した。

方法

研究協力者: 公立幼稚園の4歳児クラス・5歳児クラスの幼児の母親52名に研究の協力を依頼した。

研究計画: 本研究では2×12の2要因の要因計画を用いた。第1の要因は母親の子ども数であり、子どもの数が一人、二人以上の2であった。第2の要因は子どもの行動の種類であり、目、鼻、口、眉毛、耳、腕、脚、表情、歩き方、足音、息音、話し方の12であった。これらの内、母親の子ども数は協力者間要因であり、子どもの行動の種類は協力者内要因であった。

手続き: 幼児の母親に「子どもの心のサイン認識尺度（CS-SCM: Cognition Scale for Sign of Children's Mind）」を提示した。「子どもの心のサイン認識尺度（CS-SCM）」は、親などが子どもの心の状態（子どもが悲しい時）を子どもの行動から推測できるのかを評価した。子どもの行動としては、目、鼻、口、眉毛、耳、腕、脚、表情、歩き方、足音、息音、話し方について質問した。

結果

各身体部位からの気持ちの推測

Fig.1は、子どもが一人の母親と子どもが二人以上の母親についての、子どもの心の推測水準の平均値を示したものである。これらについて、2（子どもの数：一人、二人以上）×12（子どもの行動の種類）の分散分析を行った。その結果、身体部位の主効果は有意であった（F（11, 429）

=52.89, $p<.001$)。この結果は、母親は子どもの心の状態を推測する際に、子どもの目、口、表情、歩き方、話し方の情報を使うことが示唆された。しかし、子どもの数の主効果 ($F(1, 39) = 0.49$) と身体部位×子どもの数の交互作用 ($F(11, 429) = 0.84$) は有意でなかった。

顔における動情報と静情報からの気持ちの推測

Fig.2は、子どもが一人の母親と子どもが二人以上の母親についての、顔における動情報と静情報による子どもの心の推測水準の平均値を示したものである。動情報とは、目や口についての情報であり、静情報とは鼻や耳についての情報である。これらについて、2 (子どもの数:一人、二人以上) × 2 (顔情報:動情報と静情報) の分散分析を行った。その結果、子どもの数の主効果が有意で、子どもが一人の母親よりも二人以上の母親の方が有意に子どもの心を推測できることが認められた ($F(1, 50) = 236.84$, $p<.001$)。また、顔情報の主効果も有意で、静情報よりも動情報の方が有意に子どもの心の状態を推測できることを示していた ($F(1, 50) = 170.50$, $p<.001$)。さらに、子どもの数×顔情報の交互作用も有意であった ($F(1, 50) = 6.22$, $p<.05$)。これは、静情報では子どもが一人の母親と二人以上の母親に差は見られなかったが、動情報では子どもが一人の母親よりも二人以上の母親の方が有意に子どもの気

持ちを推測できると評定していたことを示している。

顔以外の情報からの心の推測について

Fig.3は、子どもが一人の母親と子どもが二人以上の母親についての、全体情報による子どもの心の推測水準の平均値を示したものである。これらについて、2 (子どもの数:一人、二人以上) × 5 (全体情報:表情、歩き方、足音、息音、話し方) の分散分析を行った。その結果、子どもの数の主効果が有意で、子どもが一人の母親よりも二人以上の母親の方が有意に子どもの心を推測できることが認められた ($F(1, 40) = 456.16$, $p<.001$)。

また、全体情報の主効果も有意であった ($F(1, 40) = 10.40$, $p<.05$)。表情・歩き方、表情・足音、表情・息音、歩き方・足音、歩き方・息音、足音・話し方の間で有意な差 ($ps<.001$) が見られたことを示していた。

しかし、子どもの数×全体情報の交互作用も有意でなかった ($F(1, 40) = 0.85$)。

考察

本研究の結果を要約すると、以下になるだろう。(1) 母親は子どもの心の状態を推測する際に、子どもの目、口、表情、歩き方、話し方の情報を有意に多く使うことが認められた。(2) 子どもの数が一人か二

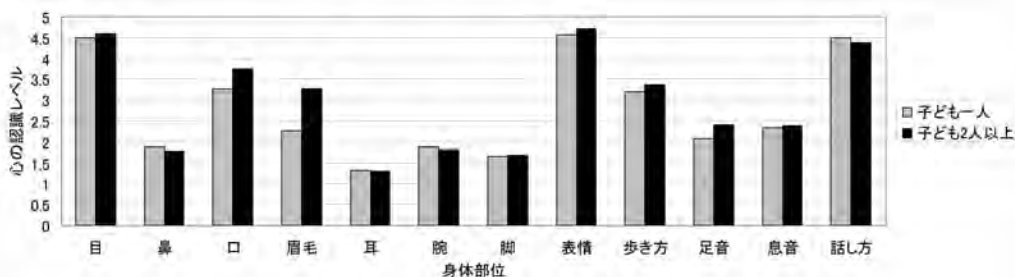


Fig. 1 子どもの数と子どもの心の認識

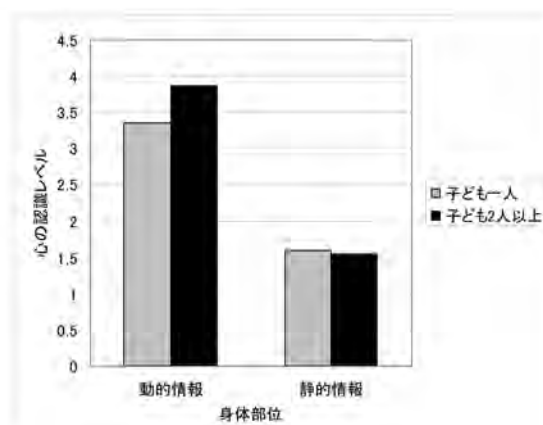


Fig. 2 顔の情報に基づく心の認識

人以上によって、子どもの心の推測に有意差は見られなかった。以下では、これらの結果について考察したい。

母親は子どもの心の状態を推測する際に、子どもの目、口、表情、歩き方、話し方の情報を有意に多く使うことが認められた。なぜ母親は子どもの心の状態を推測する際に、子どもの目、口、表情、歩き方、話し方の情報を有意に多く使うのであろうか。その理由のひとつとして、これらの情報には、多くの手がかりが含まれているからではないだろうか。その中でも、部位の動きが大きな要因かもしれない。目や口は鼻や耳に比べ動きの自由度は大きい。特に、目や口は、それぞれの部位で感情を表出することが可能である。たとえば、怒りの感情を持った場合は、人を睨みつける目をしたり、口をゆがめることが多い。困った場合は、目尻を下げたり、口をすぼめるなどの変化が見られる。また、顔の表情は感情によって変化する。歩き方についても、怒った場合とうれしい場合では異なることが多い。このことは、顔情報の目や口の動情報と鼻や耳の静情報を分析したところ、静情報よりも動情報の方が有意に子どもの心の状態を推測できることを示していたとの結果からも、このことが示唆される。

次に、子どもの数が一人か二人以上によって、子どもの心の推測に有意差は見られなかった。この結果は、本研究の予測とは異なる結果である。子どもを始めて育てる母親に比べ、子どもを多く育てている母親の方が、子どもの行動から子どもの心の状態をより適切に推測しようとするのではないかと予想した。理由のひとつは、子どもの数にあるのかもしれない。本研究では、子どもの数が一人か二人以上に基づいて、母親をタイプ分けした。子育ての経験は、一人を育てたことと二人を育てたことで、大きな差が出ないのかもしれない。むしろ、一人を育てた場合と3人以上の子どもを育てた場合に母親をタイプ分けする必要があったのかもしれない。

もうひとつの原因は、一人の子どもを育てることが母親にとって子どもの気持ちを推測するのにかなりの大きな要因になっているかもしれないということである。すなわち、育児経験の女性と比べたのであれば、

一人の子どもを育てた母親との間で有意な差が見られるのではないかと思われる。

引用文献

- Keating, C.F. and Heltman, K.R. (1994) Dominances and deception in children and adults: Are leaders the best misleaders? *Personality and Social Psychology Bulletin*, 20, 312-321.
- Baron-Cohen, S. (1995) *Mindblindness: An essay on autism and theory of mind*. The MIT Press.
- Baron-Cohen, S., Leslie, A.M., & Frith, U. (1985) Does the autistic child have a "theory of mind"? *Cognition*, 21, 37-46.
- Gopnik, A. & Astington, J.W. (1988) Children's understanding of representational change, and its relation to the understanding of false belief and the appearance-reality distinction. *Child Development*, 59, 26-37.
- Mitchell, P. 1996 *Introduction to theory of mind: Children, Autism and Apes*. Arnold, London.
- Perner, J., Frith, U., Leslie, A.M. & Leekman, S.R. (1987) Explanation of the autistic child's theory of mind: Knowledge, belief and communication. *Child Development*, 60, 689-700.
- Peterson, C.C. & Siegal, M. (1995) Deafness, conversation and theory of mind. *Journal of Child Psychology and Psychiatry*, 36, 459-474.
- Wellman, H.M., Cross, D., & Watson, J. (2001) Meta-analysis of theory-of-mind development: The truth about false belief. *Child Development*, 72, 665-684.
- Wimmer, H. & Perner, J. (1983) Beliefs about beliefs: representation and constraining function of wrong beliefs in young children's understanding of deception. *Cognition*, 13, 103-128.

この研究は科学研究費補助金によって行われた（課題番号：21530711）。

**Mother's Theory of Mind and The Number of Children Raised:
Mother's Process of Understanding Children's Mind**

Osaka Shoin Women's University Faculty of Child Sciences Department of Child Sciences
Haruo KIKUNO

Abstract

It was examined in this study whether the experience of caring child affect how mothers guess their child's mind. It was expected that mothers with caring more than two children would guess their children's mind more than mothers with caring one child. Mothers were presented the Cognition Scale for Sign of Children's Mind (CS-SCM). The result showed that mother used the information of children's eyes, mouth, expression, walking and speaking. The result also showed that the number of child whom mother care did not influence the ability of guessing child's mind.

Keywords: Theory of mind, Mother, Sign of mind, the Number of Children Caring